

3. 衣について

<衣服> 品類甚多。但し露出、露腹、露首、露耳、露足、露民

。バテンボの人々の衣服は全て、農耕民(バギギ)から手に入れる。女性の場合、「キクユンベ」というカーテンのような布を腰に巻きつけている。上半身は「ブラウス」などで、これといったバテンボ独自の民族衣装はなかった。ただ、男の子、特に幼児ほとんど裸であり、細い紐を腰に回している子供もいた。

晴れ着についても特別なものはない。結婚する際に、男性が女性に新しい衣服を買ってやる程度である。

<衣服の数と保管>

衣服の数は、服が高価なため大人1人当たり2枚ぐらいである。3枚持っている人は少なく、1枚しか持っていない人も何人かいた。普通、子供は1枚しか持っていない。幼児はほとんど持っていない。

衣服の保管に関しては、木の枝や家の草ぶき屋根に乘せかけているようだ。

<下着と履物>

下着に関しては、男性も女性も身につけていないと思われる。女性の場合、「ブラウス」の下は裸であった。また、川で「キクユンベ」を腰に巻きつけただけで泳いでいる女性を見かけたが、女性の足から脚が透けて見え、下着はつけていなかった。男性の下着も見かけることはなかった。しかし、女性の生理時に、下着無しでどう対処するのであろうか。

大抵のバテンボは裸足で生活をしている。狩猟に行く時も、ブッシュの中に入って行くにも拘らず、裸足のままで平気のようだ。中には狩猟用に動物の皮を利用した靴や足の親指だけを覆ったものを自分で作り履いていた。

<装飾品>

アバゴゴ 8

男性も女性も、耳飾り、首飾り、腕輪、指輪といった装飾品を好んで多くつけていた。それらの中には、木や動物の皮を使った自製のものもあった。



<自製の首飾り>

<身体塗飾>

バテンボとバギギの見分けは身体塗飾(刺青)によってつけられる。昔は、バテンボのシンボルとして男女共に刺青を義務づけられていたが、今日においては、ファッション的意味しか持っていないようだ。現に、若い男性には見られなかった。

身体塗飾の刺青は、皮膚をカミソリで切り、そこにたき火の灰をすり込み、乾かすだけで、特に色をつけるということはしていない。

